

説 教

北浜チャーチ 創立25周年記念礼拝
黒田 禎一郎

2023年6月11日（日）

主 題：「でも、という信仰」
—シモンの信仰—

テキスト：ルカの福音書5章1－5節

はじめに

1. お早うございます。

北浜インターナショナル・バイブル・チャーチ（北浜チャーチ）は、本日25歳という誕生日を迎えました。これまで多くの兄弟姉妹の祈りと奉仕、そして支援をいただきました。それはただ神の恵みであり、あわれみです。

私たちはこのことを大いに喜び、また感謝します。そして主に心からの賛美と礼拝をお捧げします。

2. ところで、主が今日お与えくださったテキストは、ルカ福音書5章です。

ここはシモンがイエスに出会い、召命を受けたところです。そこで、私はシモンとイエスとの出会いから、主のお導きについて共に考えたく思います。

- ・シモンはガリラヤ湖で漁師でした。その日、彼は一晩中漁の仕事をしましたが、何一つ取れませんでした。これはごくマレなことでしょう。なぜなら、漁師はその道の専門家（プロ）であるからです。
- ・プロはその道を極めていきますから、魚がとれるかどうかはある程度は予測するものです。その時の、天候（気温、風の流れ）、波の具合、水温、その他の条件から推測します。しかし、その日の漁は収穫がありませんでした。そこでイエスは言われました。

5:4 話が終わるとシモンに言われた。「深みに漕ぎ出し、網をおろして魚を捕りなさい。」

- ・イエスは、実に不思議なことを言われました。シモンの立場から言えば、とんでもないことであつたでしょう。これは私の推測ですが、彼は「自分は漁のことは知っている。イエス様、あなたはナザレの大工の息子ではありませんか。
- ・ですから、漁の道はご存知ないでしょう。」と思ったことでしょう。つまり、彼はイエスの言われたことばに、疑いをもったのです。こんな時間帯（日本時間でいえば、たぶん昼前）に網を降ろしても、漁ができるはずないと思いました。
- ・疑い、迷いなどは誰にでもあります。疑い、迷いがない人生はないでし

よう。しかし、このストーリーには、大切な前提がありました。

① それは先ず3節です。

5:3 イエスはそのうちの一つ、シモンの舟にのり、陸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして腰を下ろし、舟から群衆を教え始められた。

- ここで「**漕ぎ出すように頼まれた**」とあります。ドイツ語ルター訳聖書を開くと、ルターは「**漕ぎ出すように懇願した**」(bitten:ビッテン)とあります。「ビッテン」という単語は、強い願望を表します。それは乞食が何か物をくださいと、強い願望を表す時に用います。天地を造られた神の御子イエスが、ガリラヤの一介の漁師に「**漕ぎ出すように懇願された**」ました。考えられないことです。
- もし、この時にシモンがイエスに舟を提供しなかったならば、この後のストーリーは続かなかったでしょう。すべては、イエスがペテロに舟を貸してくれ、としかもイエスの方から懇願されたことから始まりました。そしてシモンも、それに応答した時から始まりました。
- 皆さん。神様は私たちの人生においても、神の方から身を低くされ、近づいて来られることがあります。そして懇願されるようなことがあります。問題は多くの場合、そのことに気づかないことが多いのです。

② もうひとつは次の4節です。

5:4 話が終わるとシモンに言われた。「深みに漕ぎ出し、網をおろして魚を捕りなさい。」

- この文章は、文法的には命令形です。すなわち、イエスは命令されたのです。前の3節のイエスの懇願とは、まったく違います。命じておられるのです。つまりイエスの懇願に応答したシモンを、更に高嶺に導くために、イエスは強く命じられました。3節と4節の文脈を、よく読みとってほしいと思います。
- 考えてください。もし、シモンがこのイエスの命令に応答しなかったならば、その後のストーリーは続きませんでした。同じように、神は私たちを更に導くため、高嶺に引き上げるために命じられることがあります。神にはシモンに偉大な計画があったように、私たちにも計画があるのです。
- 皆さん。これらの二つの前提を受けて、5節があるのです。
5:5 すると、シモンが答えた。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。でも、おことばですので、網を下ろしてみましよう。」

- 今日のメッセージのキーワードは、この5節です。
ここで私たちは何を学ぶでしょうか。私は「**でもおことばどおり、網をおろしてみましよう。**」を教えられます。「でも」とは、「しかし」ということです。つまり疑い、迷いがあります。「でも」とは、前に言われたことに100%同意はしないが、後ろの文章につなぐときに用いられます。
- たとえば、「天気予報では明日、雨が降るかもしれないと言っています。でも（しかし）、明日はピクニックに行きましょう。」同じように、ペテロはイエスのことばに、100%同意していないけれども、イエスの言われるように、「**網をおろしてみましよう。**」と言いました。
- 私たちはここで、2点考えたいと思います。

大切なポイント

1. 主のおことばを信頼する歩み

- ペテロは5節で言いました。
5:5 先生。私たちは夜通し働きましたが、何一つ捕れませんでした。
これは彼の経験でした。人は自分の経験、能力、才能、判断に基準をおくものです。しかし、シモンは自分の経験を言いました。それは間違いであったでしょうか。いいえ、そうではないと思います。仮に私がその場にいたとするならば、同じことを言うでしょう。
- しかし、ここでシモンは自分の経験を持ち出す必要はありませんでした。なぜでしょうか？ ⇒ **イエスがそこに臨在されたからです。**
イエスの臨在の前に、人間的な経験、才能、能力、判断などは小さなものです。ですから、自分の経験を持ち出すことは不要でした。
- 皆さん。私たちも時として、そのようなことをするのではないのでしょうか。イエスはシモンが漁師のプロであることは承知していました。しかし、イエスは常識を超えて不思議（祝福）を行われました。
- では、何が問題でしょうか？ ⇒ **主イエスの臨在の前に、人間的な経験、能力、知識などは不要であることです。皆さん。どうぞ誤解しないでください。神は私たち人間の才能、能力、経験を用いられますが、それよりも大切なことは「主のことば」に従順に、信頼するかどうかであります。**

2. 主にあって従順な歩み

- 5:5** すると、シモンが答えた。「先生。私たちは夜通し働きましたが、何

一つ捕れませんでした。でも、おことばですので、網を下ろしてみ
ましょう。」

- ここに書かれている、「でも、おことばですので」に注目してください。

ドイツ語ルター訳聖書：“auf Dein Wort”

Auf (アオフ) : (なになにの) 上に

Dein (ダイン) : あなたの (イエス)

Wort (ヴォルト) : ことば

直訳すれば、「あなた (イエス) のことばの上に」です。すなわち、イエスが言われたおことばの上に、私は信頼の網をおろしてみますと言いました。

- そこでイエスは、その言葉を受けて、シモンの「でも、という信仰」を祝福されました。ハレルヤ！

{証し} 黒田 禎一郎

- 私たちの北浜チャーチは、文字通りゼロから始まった信仰者の群れです。私には忘れられない「思い出」が多くあります。はじめの礼拝はこの近くの公共施設「エルおおさか」の一室で、時間制で借りて始まりました。
- 私は毎週、聖書、賛美歌、聖歌、礼拝式次第と週報などを箱に詰めて運びました。礼拝後、聖書や賛美歌などを置く場所さえ、ありませんでした。わずか十数名の兄弟姉妹による、小さな礼拝の始まりでした。
- その後、内平野町に会堂が与えられました。その頃、教会外の方々によって多くの支えと協力をいただきました。その会堂は53坪の広さでした。そこに北浜チャーチ、ミッション・宣教の声、LCJE日本、日欧交流研究所 (JEEQ)、グレイス外語学院の5団体が入居しました。
- そこは礼拝堂であり、事務所であり、相談・カウンセリング場所であり、来客を迎える場所でした。私にとって最も大変であったのは、心静める部屋がないことでした。部屋は、本箱と薄いカーテンで仕切られた程度でした。
- 朝から晩まで人の出入りと来客があり、その上これら5団体の電話が鳴りました。皆さんには、どんな状態であったか想像できるでしょうか。
- その上、私は当時、堺の教会と兼牧でした。聖日礼拝は次のようでした。朝9時から10時まで、北浜チャーチで礼拝説教し、終わるや否や、私は阪神高速道路を車で運転し、堺へ向かいました。

- ・ 堺の礼拝は10時30分からでした。そしてお昼に礼拝が終わると、今度は車で北浜へ帰り、午後には勉強会や諸ミーティングをしました。皆さん。このリズムが1年間つづきました。しかし主はお守りくださり、一度の事故もトラブルもありませんでした。本当に感謝でした。
- ・ この背後には、多数の兄弟姉妹の祈りと協力がありました。私の記憶では不平・不満の声は聞こえませんでした。皆が私たちの教会という意識で、主に献身的に仕えてくださいました。経済的には、貯えがまったくない中でした。
- ・ しかし、私は当時「北浜に200人の会堂を備えてください。」と大胆に祈っていたことが、私の「祈りの手帳」に書かれています。
⇒それが、大阪証券取引所のすぐ横に位置するこの会堂です。
確かに、ご覧のように奇跡が実現しました。感謝。
- ・ ここのVIP関西センターに会堂が移転する時、少しの貯金もありませんでした。1千数百万円する会堂改装工事費用が、わずか2週間で備えられたことも驚異的でした。それは奇跡でした。
- ・ それは皆が喜んで捧げ、協力してくださったからです。本当に感謝でした。献堂式の時、与えられた聖書の言葉は、「主の山の上に備えあり」(On the mountain of the Lord, it is provided) でした。振り返ると、主はいくつも教えてくださいました。本当に感謝します。
 - ① **主はすべてのわざを先導してくださる方です。**
それは主がイスラエルの民に、昼は雲の柱、夜は火の柱で先導くださったようです。私たちの神は、「無から有を有みだす方」です。
 - ② **主の臨在のもとで、兄弟姉妹は喜んで奉仕し、喜んで捧げてくださいました。**まさしくマラキ書に書かれているように、神への捧げ物（献金、奉仕など）が喜んで捧げられ時、神は天の倉を開き祝福を与えてくださいました。主は真実なお方で応答くださるお方です。
- ・ 使徒の働き2章にでてくるエルサレム教会は、その祝福の姿を見せてくれています。感謝。
- ・ このように振り返ってみますと、私たちは今日も生ける主を仰ぐことができます。信仰とは、そのようなものです。私たちは今日も生きて働かれる神を信じる者です。

- ・ところで、話しをメッセージに戻しましょう。シモンは大漁を得て、イエスのことばに従順に従うことの祝福を経験しました。彼は、イエスがどんなお方かを知りました。その時、彼は言いました。

5:8 これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して言った。「主よ。私から離れてください。私は罪深い人間ですから。

- ・主の臨在にふれたシモン・ペテロの言葉でした。
皆さん。「でも、という信仰」 ⇒ それでも、主は祝福されました
イエスは言われました。マタイ福音書

17:20 イエスは言われた。「あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに言います。もし、からし種ほどの信仰があるなら、この山に、『ここからあそこに移れ。』と言えば移ります。あなたがたにできないことは何もありません。」

- ・皆さん。「からし種の信仰」、「でも、という信仰」⇒それを実行する時、神は栄光を現してくださいます。感謝！
- ・いかがでしょうか・・・？ 私たちは、どんな信仰を持っているでしょうか。イエスは「でも、という信仰」をシモンが実践した時、祝福が与えられました。今朝、私たちはもう一度、主の御前に出ようではありませんか。

ま と め

主 題：「でも、という信仰」

—シモンの信仰—

- ・今日、私たちは創立25周年記念礼拝を迎えました。
主が北浜チャーチを、どのようにお建て下さったかを学びました。それは教会の始まりでした。
- ・北浜チャーチ「創立25周年」、それは次の教会建設の始まりです。
それはシモンとイエスとの「出会い」から、全てが始まったように、私たちも主イエスとの「出会い」が大切です。
- ・シモンは生けるイエス・キリストを経験しました。北浜チャーチも同じく、生ける主イエス・キリストを経験しました。主を経験する歩みは幸いです。
それはまた、主の恵みです。私たちの生活は、いかがでしょうか。
- ・シモンのイエスとの出会いから、私たちは次の2点を学びました。

1. 主のおことばに信頼する歩み
2. 主に従順に従う歩み

* God bless you!